

1 単元名 どうぶつのはな

2 目標

- (1) 写真と文章を結び付けて、書かれている事柄を進んで読み進める。 (関心・意欲・態度)
- (4) 文章のまとまりを意識しながら書かれている事柄を正しく読み取る。 (読むこと)
- (5) 拗音、拗長音の発音や表記について正しく理解する。 (言語事項)

3 指導にあたって

(1) 教材について

入学後、初めて出会う説明文教材である。そのため内容を読み取ることに抵抗のある児童もいるかもしれない。そこで、教材文の冒頭にインパクトのある写真をもってきて、児童の興味づけを図っている。また、児童にとってなじみのある「かば」の鼻から始まり、「はりもぐら」「ぞう」の鼻へと続いている。いずれの動物も鼻がどのような特徴を持ち、その特徴がどのように役立っているのか(便利な点)が、説明されるという組み立てで作られている。また、たくさんの写真やページをめくると答えがわかるというクイズ形式で構成されており、この時期の児童にとっては、関心が高まる教材であると思われる。

(2) 児童について

入学してから2ヶ月余り、学習規律の確立を意識して、基本的な学習の構えや発表のしかたなどを指導しながら、ひらがなや教材文の学習を進めてきた。

「うれしいひ」や「あめですよ」や「てがみ」で、場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読んだが、自分の思いを積極的に発表する子は限られており、語彙数も個人差がかなり大きい。また音読でも、正しく読めない子、一字ずつの拾い読みをする子が数人いる。

1ヶ月前より、週の始めに休日の出来事を絵と文で表現している。また「てがみをかこう」で自分の学校での体験を手紙に書き、お家の人に知らせる活動をした。ここで、主述の照応や句読点を意識させてきたが、十分定着はしていない。平仮名が正しく書けない子、時折鏡文字になってしまう子も数人いる。

(3) 研究とのかかわり

この単元で、文章のまとまりを意識しながら書かれている事を正しく読み取る力をつけたい。そのために、

- ・音読練習をしっかりとさせる。
- ・大まかな文章構成をつかませる。(3つのどうぶつの鼻、クイズ形式)
- ・写真を活用し、文と結びつけて考えさせる。
- ・言葉の持つ意味を確かなものにするための説明や動作化を取り入れる。
- ・○でかこんだり、サイドラインを引いたりして、主語と述語の関係を意識させる。
- ・「～や」「～たり～たり」といった列挙を示す表現に慣れさせる。

などを大事にして取り組みたい。

そして、読解をより確かなものにするために、学習の終わりに「書く活動」を取り入れている。前単元の「てがみをかこう」で学習した主述の照応に気をつけながら、動物の鼻について読み取ったことを自分たちの身近な人（校長先生・教頭先生など）に知らせる。その相手の協力を得て返事をもらい、次時の導入段階で、紹介することで「書いてよかった」「また知らせたい」という学習意欲につなげていきたいと思っている。

4 指導計画と評価（総時数8時間）

次	時	・学習活動 ○評価規準 【評価方法】	評価の観点				
			関 意 態	話 す 聞 く	書 く	読 む	言 語
一	1	・写真と文章を見て、想像したことを自由に話し合う。 ○写真と文章を結びつけて進んで書かれている事柄を読み取ろうとしている。 【行動観察・発言】	○				
	2	・全文を音読し、内容の大体をつかんで学習の見通しを持つ。 ○説明されていることの大体をつかみ、動物の鼻について読み進めようとしている。 【ノート】				○	
二	3	・かばの鼻の特徴と便利なところを読み取る。 ○かばの鼻の特徴と便利なところを読み取っている。 【ワークシート】				○	
	4	・はりもぐらの鼻の特徴と便利なところを読み取る。 ○はりもぐらの鼻の特徴と便利なところを読み取っている。 【ワークシート】				○	
	5	・ぞうの鼻の特徴と便利なところを読み取る。 ○ぞうの鼻の特徴と便利なところを読み取っている。 【ワークシート】				○	
三	6	・自分が1番気に入った動物の鼻を選び、その理由や感想を手紙に書く。 ○最も気に入ったどうぶつの鼻を選び、手紙を書いている。 【ワークシート】			○		
四	7	・詩を音読し、拗音・拗長音を含む語を正しく読み書きする。 ○拗音・拗長音の発音や表記について、正しく理解している。 【発言・ノート】					○
	8	・さまざまな拗音・拗長音を含む語を探し、正しく書く練習をする。 ○拗音・拗長音を含む語を探して、正しく書いている。 【ノート・ワークシート】			○		

5 本時の学習（第二次の3／3）

- (1) **ねらい** ぞうのはなの特徴と便利な所を読み取る。
- (2) **評価規準** ぞうのはなの特徴と便利な所を読み取っている。（読むこと）
- (3) **準備** ぞうの写真、ワークシート（手紙用）、蛇腹のホース、園長先生の写真
- (4) **展開**

学習活動と予想される児童の意識の流れ	時	・支援 □評価 ★書く活動での支援
<p>1 前時の振り返りをする はりもぐらのはな ・長くつきでている（特徴） ・おちばやつちをかきわけて、ありやしろありをみつける（便利）</p> <p>2 本時の課題と流れをつかむ （これは、なんの鼻でしょう。） ・これは、ぞうの鼻です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ぞうのはな はかせに なろう </div> <p>（今日の勉強の順番を確かめよう。）</p> <p>① 音読 ② 分かったことに線を引く どんなはなかな？ べんりなところは？ ③ みんなで話し合い ④ 手紙を書く</p> <p>3 音読をする 指名読み・一斉読み</p> <p>4 ぞうの鼻について話し合う （ぞうの鼻についてわかった所に線をひこう。） （ぞうの鼻は、どんな鼻かな？） ・ながくていろいろなむきにまがります。 ・はながあしまでついている。 ・上でも下でも右でも左でもむく。 （鼻が長いとどうして便利かな？） ・えさをたべたり、みずをあびたりします。 ・はながながいから、たかいところでもとどく。</p> <p>5 まとめる（手紙を書く） ・園長先生にぞうのはなのことを教えてあげよう。 ・ぞうのはなって、ながいよ。 ・いろいろなむきにまがるよ。 ・ながいから、えさをたべたり、みずをあびたりできるよ。</p>	<p>5</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>23</p> <p>7</p>	<p>・支援 □評価 ★書く活動での支援</p> <p>・本時の学習の意欲づけのために、前時に書いた教頭先生への手紙の返事を紹介する。</p> <p>・掲示を使いながら、既習した事を振り返る。</p> <p>・ぞうの鼻の写真を掲示し、本文と同じ問いかけをし、興味を持たせる。</p> <p>・答えが出ている所を確認する。</p> <p>・学習の流れの紙を提示する。</p> <p>・「ぞう」や「はりねずみ」の学習の仕方と同様であることをおさえる。</p> <p>★園長先生宛に書くことを知らせる。</p> <p>★机間指導をしながら線を引いている文を確認する。（思考・判断）</p> <p>・いろいろなむきに曲がることを隣同士で動作化させる。</p> <p>・蛇腹のあるホースを使ってやって見せる。</p> <p>・写真と照らし合わせる。</p> <p>・「～たり～たり」の表現について説明する。</p> <p>・腕を使って鼻をイメージし、動作化する。</p> <p>★手紙の用紙は2種類のものを用意し選ばせる。（思考・表現）</p> <p>読ぞうの鼻の特徴と便利なところを読み取っている。</p> <p>【ワークシート】</p>